

続・ 珈琲の思い出 22

鈴木優子

「ねえ、お母さん、今度の金曜日、会社の新年会があるんだけど、夜、子供たちをみていてもらえないかしら？その日は義弘さんも新年会みたいなのよ・・・」

仕事が終わるのもどかしく、優子は母親に電話を入れ、今度の和樹との食事が可能かどうかを確かめた。

「いいけど、あんまり遅くならないようにしてよ。」

「うん、ありがとう！」

そうと決まれば話は早い。

金曜日まで中二日。美容室に行く暇はないし、ネイルサロンに行く暇もない。せめて、明日の帰りに新色の口紅でも買いにいこう・・・。

まずは、和樹にメールだ。

【件名】..金曜日OKです。

【本文】こんばんは。お仕事お疲れさまです。金曜日の食事の件ですがOKです。あまり遅くはなれませんが・・・。

すると30秒後に和樹から返事が来た。

「やったー！！ありがとうございます。楽しみです！！嬉しいな、嬉しいな！」

くす玉が割れて、人間がバンザイしているデコメ付きである。

「それでは、【美鳥】に金曜日の19時に。入澤で予約しています。お会いしましょう。」(続く)